

オージビーフ&ラム最新事情

より本格でさらに楽しく
2005イタリア料理のイノベーター



気になる

日本酒

寿ぎの季節こそプレミアム日本酒『十四代大極上諸白 龍泉』を



高木酒造 TEL 023715712131
 十四代 龍泉 大極上諸白
 720 ml 14,000円

西年なのに、龍の話で恐縮です。

手に入りにくい幻の酒とか、大人気アイテムなどはなるべく紹介しないようにと思っているのだが、新春のお祝いに、これほどぴったりの銘柄もないなあと思わず浮かべたのが、山形高木酒造の『十四代 龍泉 大極上諸白（純米大吟醸）』だ。

カラー写真でないのが残念だが、まずはこのボトルのスタイリングをご覧ください。なんと

雅なことか。

正倉院に飾られてもいいほどといつては大きさもしれないが、その昔ペルシャからシルクロードを経て渡来したオリエンタルガラスの酒器のようではないか。古いけどモダンなデザインと色合いに惹かれる。

『龍泉』といえ、中国青磁のふるさとの街の名前でもあったり、日本三大洞窟の龍泉洞も知られている。どちらにしても美しい「青色」をイメージさせる。この『十四代 龍泉』も杯に注げば、深く青く透きとおった色を楽しめるが、不思議な偶然だろうか。

自身は、「龍の落とし子」という聞きなれない原料米を使用した「大極上諸白（＝大吟醸）」。この『龍の落とし子』は、高木酒造社長、高木辰五郎氏が1999年、美山錦と山酒4号を交配して育種した酒造好適米なのとか。

新種の、もしくは今は使われなくなった昔の酒米を、魅力的なお酒に生まれ変わらせる技術にたけた高木酒造の、まさに本領発揮の銘柄だと思ふ。

この『龍の落とし子』を高精米し、ゆつくりと低温発酵させ、丁寧に搾り斗瓶囲いし、水温熟成している。毎年造られるわけではないらしいし、これだけ手間暇かけているし、このスタイリングのボトルだ。もちろん人気の「十四代」。希少価値が高まるのもわかる。レアもののショッパやネット・オークションでは4万円、5万円の根付けはあたりまえ。なかには50万、60万、いや100万円だという話まで出ている、もうまさに本格的なプレミアム商品である。

基本価格は14,000円。

実際に飲んでみた時の感想は、まず清らかでなめらかな第一印象。きが細かい絹のようになややかな舌触りで、上品な大吟醸の華やかさを堪能できる。中盤から後半にかけて十

四代らしいしつかりとした旨味と骨格が感じられ、後味にふうわりと甘さが残り、清涼感が喉の奥にひろがる。単純に美味しいと感じ、思わずもう一杯という声が出てしまった。

もともと手頃な価格で身近な日本酒だけに、1万円を越すととても高く感じる。しかし、ワインなら結構ざらにある金額ではないか。正直1万円に見合わない内容のワインだつてざらにある。

1万円でも5万円でも、50万円でも100万円でも、いろんな価格帯の日本酒がでてきていいと思う。その内容に見合うもの、もしくは、飲み手を楽しませてくれる何かがあるなら大いに結構だと思う。オークションでの高値もまあ認めたい。ワインのオークションは絵画やジュエリーや調度品などと同じ文化価値観でワインを見ているのだから。

そこから、日本のお酒の文化度が高まり、広がるはずだ。

ますますヘビユーザーが減っていく時代の日本酒の生きる道は、そのあたりではないかと思っている。

ま、とはいえ、新春。

西年だけど、お酒は龍で。

日本酒応援団として、今年もたっぷり日本酒を飲むぞと心に誓いおめでと〜&乾杯です。